

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素(コンピテンス)	能力 (コンピテンシー)	
論理的・批判的思考力	体系化された継続的な学修により工学の基礎力を身につけ、工学技術者として論理的、批判的な思考をすることができる。	工学にかかわる分野の基礎となる、論理的・科学的・批判的思考の重要性や手法を、体系化された継続的な学修によって理解・習得し、専門分野における幅広い知識の吸収と高度な技術力を身につけ、発揮することができる。
問題発見・解決力	工学の基礎力に基づいて、自ら問題を発見し考察できる発想力と分析力を持ち、問題の解決策を提案できる。	持続可能な社会の実現に向けた、工学にかかわる幅広い分野の知識や技術の学修を通して、問題解決型や提案型の思考に接することで想像力を養い、豊かな発想と高度な分析を通して、自ら問題を発見し解決できる。
挑戦力	地球環境の保全や健康的な生活に工学の立場から寄与し、持続可能な社会の実現のために、あきらめない気持ちを持って果敢に挑戦することができる。	持続可能な社会の実現に向けて自ら考え行動し、工学にかかわる分野で社会に貢献できる専門知識・技術を体系的に身につけ、自らのキャリアデザインも含めて、新しいことに果敢に挑戦することができる。
コミュニケーション力	社会性を持つ工学技術者として、常に他者の意見に耳を傾け、自らの意見を相手に伝えることができる。	社会性を持つ工学にかかわる分野の技術者として、豊かな人間関係づくりの土台となる心身の健康、集団での行動、また多様なメディアを通してのコミュニケーション力を身につけ、自分と異なる立場の他者を理解・尊重しつつ、自らの考えを相手に伝えることができる。
リーダーシップ・協働力	工学技術者の立場から他者との協働を通して、リーダーとして他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	学修における協働作業のなかで、他者と協働し社会に貢献できる人間性豊かな技術者になる素養を身につけ、集団のなかでリーダーとして他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
省察力	自己を見つめ、自らの言動を謙虚に振り返り、工学技術者として自己を高めることができる。	工学にかかわる分野に関して、常に他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止め、自らの学修や活動の達成度を謙虚に振り返り、新しい知識や技術の習得に励むことができる。

土木工学科 カリキュラム・ポリシー

土木工学科では、日本大学並びに本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿って、土木工学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の項目にある教育を行うカリキュラムを編成します。

全学共通初年次教育科目を含む教養科目、自然科学科目・情報処理科目を通し、自主創造やロハスの工学に関する概念を理解し、豊かな教養と自然科学に関する基礎知識を身に付ける教育を行う。その上で、専門教育科目を通し、社会基盤と環境に関する土木工学の基礎知識を修得できる教育を行う。

外国語科目を通し、語学の基礎を学修すると共に、高い倫理観、安全性や自然との共生に関する基礎知識を養う科目を通し、国際社会や地域社会における多様な価値観を理解し、社会システムの基本とすべき事柄を修得できる教育を行う。

実験・実習科目や、ゼミナール、卒業研究等を通し、人間性豊かな技術者として、自主的かつ継続的に物事を考え、行動すると共に、他者とのコミュニケーションを図り、協働して課題解決にあたる能力を修得できる教育を行う。

土木工学の分野で求められるものづくりに対する基礎技術・技能を養う科目を通し、実践的技術者として多様な資格取得を目指すための基礎を修得できる教育を行う。

建築学科 カリキュラム・ポリシー

建築学科では、日本大学並びに本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿う、建築学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の項目にある教育を行うカリキュラムを編成します。

建築士試験の指定科目と建築に必要な幅広い専門知識の学修を系統立てて全学年で行い、建築学に関する知識を自主的かつ継続的に身につける教育を行う。

建築を取り巻く広い意味での環境を客観的に理解し、持続可能な社会に向けて他分野の幅広い人とも協働して取り組める力を身につける教育を行う。

設計演習や実験科目を通して、専門的な情報を収集・整理・分析し計画的にまとめ上げ、自分の考えを適切にわかりやすく伝える力を身につける教育を行う。

ゼミナールや卒業研究を通して、論理的思考や創造的な建築技術を身につけ、社会における建築の役割を理解し、その課題の解決策を専門的に表現できる教育を行う。

機械工学科 カリキュラム・ポリシー

機械工学科では、日本大学並びに本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿った機械工学科のディプロマ・ポリシーを達成するため、以下の項目にある教育を行うカリキュラムを編成します。

基礎製図、数値計算リテラシー、ロハス工学 I を設置し、ロハスの機械を学ぶ上のモチベーションを高める教育を行う。

4 力学（機械力学、材料力学、熱力学及び流れの力学）を中心とする機械系基礎について充実した教育を行う。

機械設計製図、機械工学実習、企業実習、コンピュータ援用に関する科目等による実践的教育を行う。

学生の習熟度に応じた教育を行う。

ロハス工学、ヒューマンダイナミクス工学等の専門教育科目や総合教育科目による機械と人間、社会及び自然との関わりに関する知識を提供する教育を行う。

実験、実習、ゼミナール等を通じて、まとめる力やプレゼンテーション力を高めるための直接指導による教育を行う。

ロハスの工学に関する卒業研究をはじめ、システムダイナミクス、エネルギーシステム及びシステムインテグレーションに関する卒業研究を指導することによる教育を行う。

電気電子工学科 カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科では、日本大学並びに本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿う、電気電子工学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の項目にある教育を行うカリキュラムを編成します。

電気回路、電磁気学、電子回路等の専門科目を通じて情報通信・電気・電子に関する基礎知識と技術を身につける教育を行う。また、工学の基礎であり、発展のためとなる物理学や工科系数学等の自然科学科目などの幅広い教養を身につける教育を行う。

外国語科目の修得を通じて、国際的視野に立って活躍するために必要なコミュニケーション能力を身につける教育を行う。

実験・実習を通じて工学的に考察できる能力に加え、社会貢献に寄与できる課題を設定し、解決するためのデザイン能力を身につける教育を行う。

技術者倫理等の学修を通じて新たな技術要望に対応できるよう倫理観をもって自主的かつ継続的に学修する能力を身につける教育を行う。また、情報通信・電気・電子に関わる技術の社会環境の変化の新たな課題を認識し、柔軟で総合的な判断に基づいた遂行能力及びまとめる能力を身につける教育を行う。

電気主任技術者、教員、臨床工学技士等の免許の取得により、人類の生活と社会や福祉への貢献に際して、物事を総合的に判断し得る能力を身につける教育を行う。

生命応用化学科 カリキュラム・ポリシー

生命応用化学科では、日本大学並びに本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿う、生命応用化学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の項目にある教育を行うカリキュラムを編成します。

全学共通初年次教育科目を含む教養科目では、人間性豊かな技術者になるための素養を身につける教育を行う。中でも全学共通初年次教育科目では、アクティブラーニングを取り入れながら、自ら考え行動できる自主創造力を養い、また、応用化学及び生命化学分野の技術について、議論することにより、持続可能な社会の実現とのつながりを意識した幅広い専門教育科目への導入を目的とした教育を行う。外国語科目では英語の基礎力をつけるとともに生命応用化学分野の専門的な英語講

読を行い、グローバルに活躍する技術者を目指す教育を行う。体育科目では、心身の健康を育み、また集団での行動が身につけられる教育を行う。

自然科学科目では、数学、物理、化学について、入学前に学んだ基礎知識の再確認に加え、専門教育科目の理解の基礎となる分野についての教育を行う。

専門教育科目及び専門共通科目では、健康で持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え行動でき、社会に貢献できる専門知識を身につける教育を行う。そのため、基礎と実験を重視する学修を行っている。最終学年では卒業研究を通して、より実践的な自主創造の力を身につける。

資格に関わる科目では、キャリア養成の一環として、教育免許（理科、数学、工業及び技術）の取得のための教育を行う。

情報工学科 カリキュラム・ポリシー

情報工学科では、日本大学並びに本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿う、情報工学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の項目にある教育を行うカリキュラムを編成します。

社会や人間を理解するために、社会科学や人文科学の基礎的な教育を行う。
また、国際化社会において必要とされる基礎的な外国語教育を行う。

数学、自然科学の基礎知識を理解し、物理・化学の基本的な実験を行うことができる能力を養うための教育を行う。また、コンピュータの仕組みや機能の概要を理解し、基本的な操作を行うことができる能力を養うための教育を行う。

情報技術が社会に与える影響や、情報社会の一員としての責任と義務を理解するための教育を行う。

情報系技術者として必要な 1) コンピュータシステムやアーキテクチャの知識とその応用能力、2) アルゴリズムを理解する能力とプログラムを開発する能力、3) コンピュータシステムを利用した情報システムや情報処理の知識とその応用能力、4) 情報工学の基礎となる数学の知識とその応用能力、を修得するための教育を行う。

課題を解決するために、論理を積み重ねて検討や考察を行い、適切な解答を導くことができる能力を養うための教育を行う。また、課題を解決するために、具体的に実行すべき事柄を考え、自主的な努力や他者との協働ができる能力を養うための教育を行う。

課題を遂行するために、協働者や指導者と適切なコミュニケーションをとり、得られた結果を文書や口頭で適切に報告することができる能力を養うための教育を行う。